

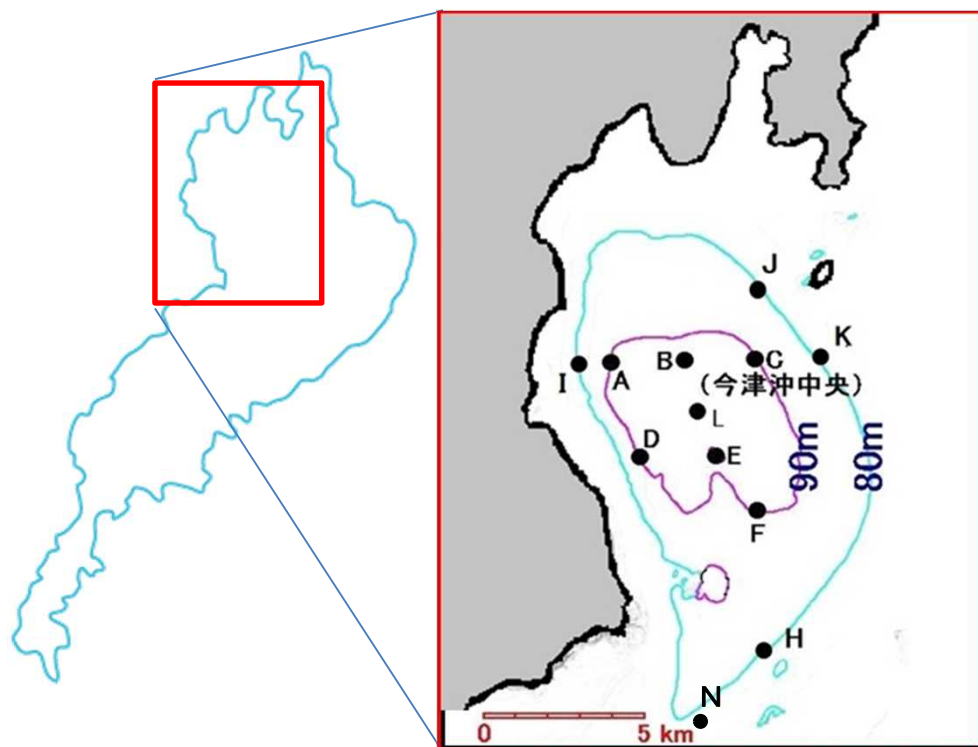
# 北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

## 調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)  
およびその周囲の調査地点

C、F、L点: 定期調査

A、B、C、D、E、F、L: 詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m): 詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

## 令和6年度の北湖底層DO調査結果（速報）

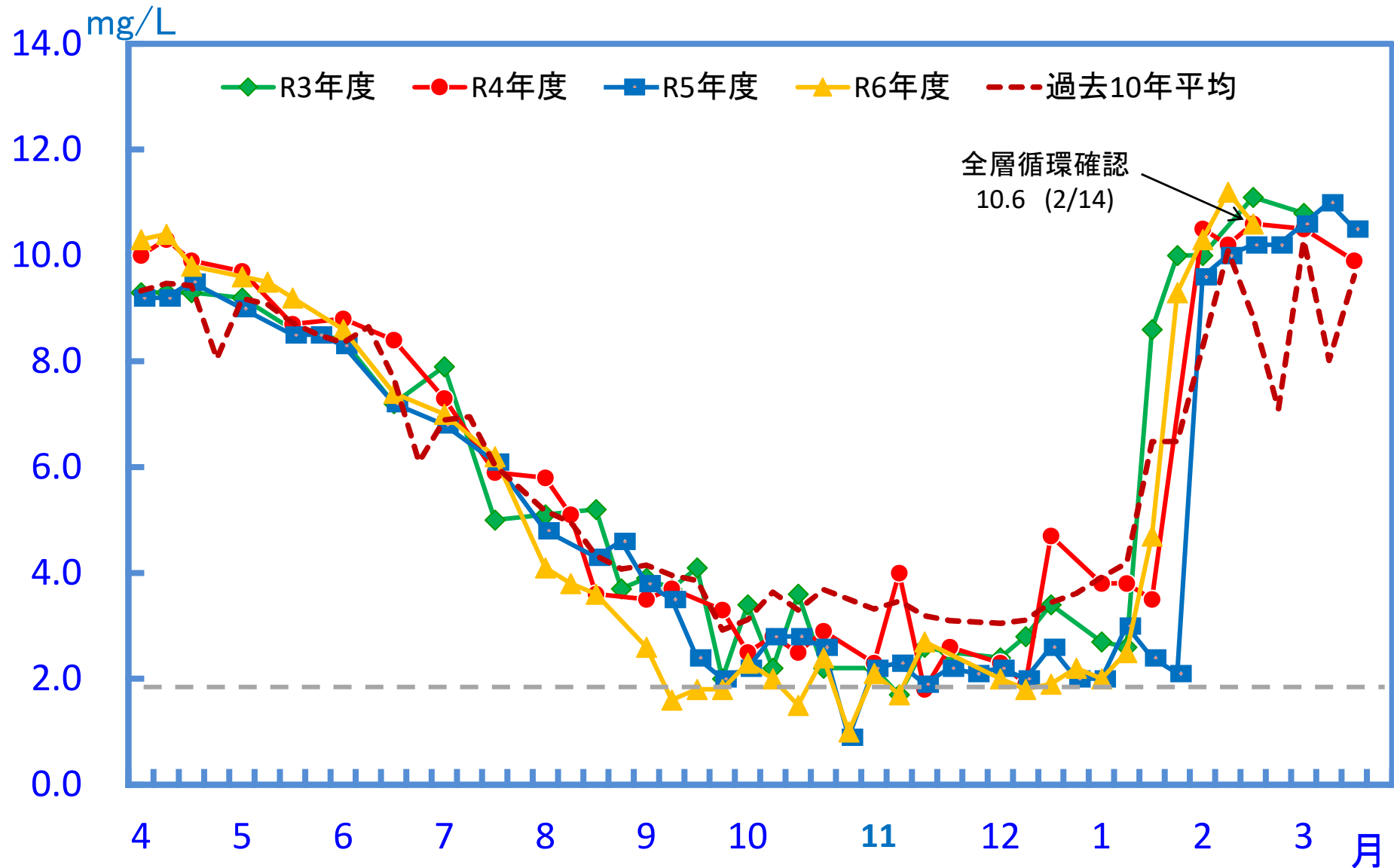
単位：mg/L

調査日 調査地点	12月					1月					2月		
	12/2	12/9	12/10	12/16	12/23	1/6	1/14	1/20	1/27	1/28	2/3	2/10	2/14
A			0.6	2.2	2.6		4.0	3.9		5.0		10.7	
B													
C(今津沖中央)	2.0	1.8		1.9	2.2	2.0	2.5	4.7		9.3	10.3	11.2	10.6
D				4.0	3.4		4.6	3.7	9.6	4.1		10.7	
E										4.5			
F	2.4		2.4	1.4	2.1	3.3	3.8	3.9		9.9	10.1	10.1	
L(第一湖盆中央)	1.9			1.5	1.5	3.4	3.0	3.5		8.9	10.4	10.6	
K(水深約80m)			4.0										
H(水深約80m)			4.2		2.6								
I(水深約80m)													
J(水深約80m)			2.4		3.6								
N(水深約80m)													
Q(水深約80m)			2.0		4.4								

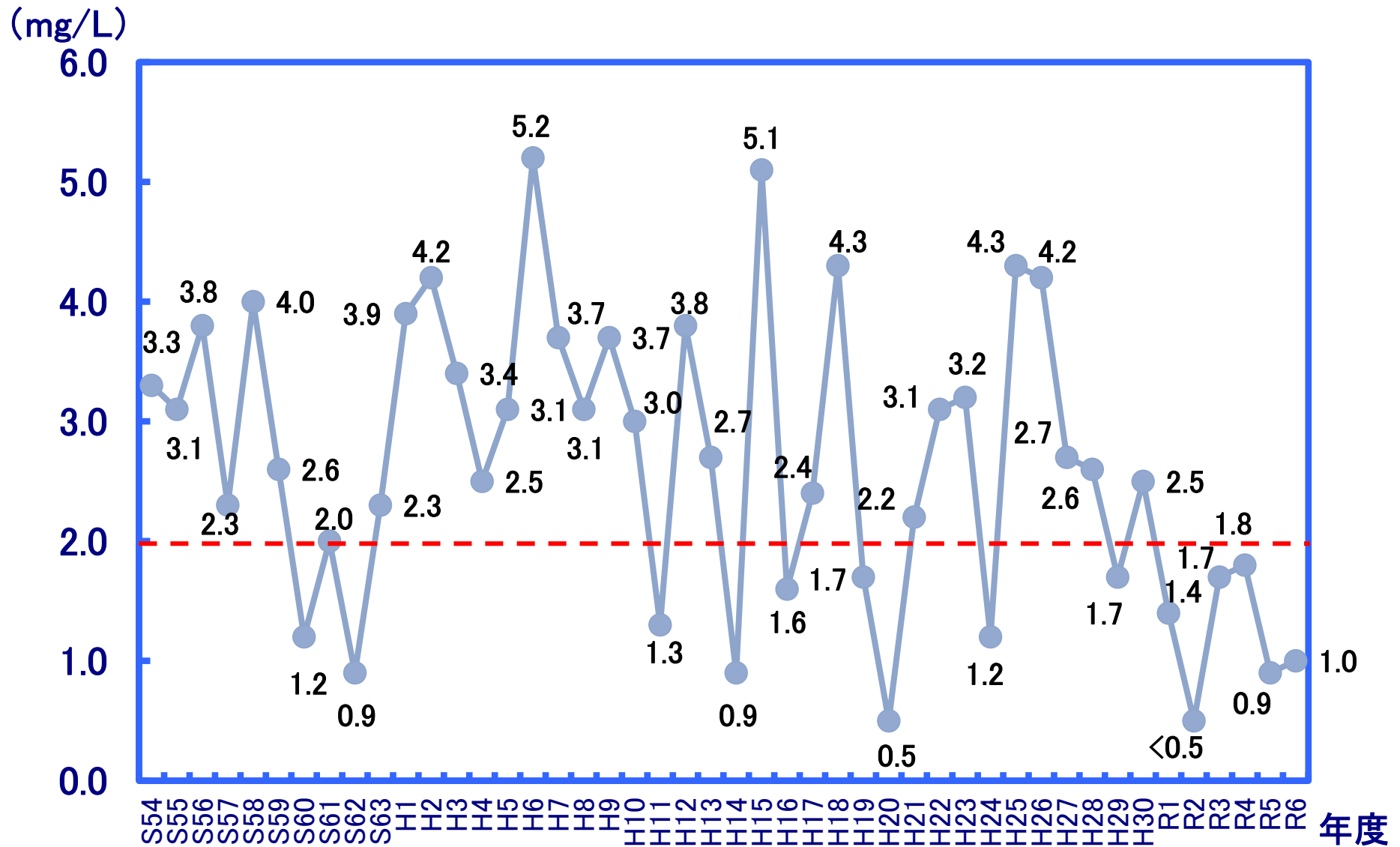
注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

# C点における底層DOの経月変動



## C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度  
 データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター